

# 令和5年度 郡市医師会 看護学校（院）担当理事・教務主任合同協議会

と き 令和5年6月8日（木）15：00～

ところ 山口県医師会6階大会議室

[報告：副会長 沖中 芳彦]

## 開会挨拶

加藤会長 各学校（院）における応募者数の減少が続いており、担当理事及び学校関係者のご苦勞を拝察する。これは本県のみの問題ではなく、全国的に同様の状況にあり、対策の検討は急務である。また、長年、看護職員を養成いただいた柳井准看護学院が、教務の確保が困難であることから閉校されたが、学生の募集、教務の確保の両面から経営が難しい時代になっている。本日は活発に情報交換をしていただき、中身の濃い協議会になるようお願い、挨拶とする。

## 協議事項

### 1 学校（院）の運営状況について

令和5年度は入学者を募集した5校（院）7課程すべてにおいて、応募者数が定員を下回っており、非常に厳しい状況が続いている。各校とも対応策を毎年実施しているが、効果が現れていな

い（協議事項4「意見・要望」を参照）。

看護師3年課程・2年課程の令和4年度卒業生数に対する県内就業者数の割合は極めて高い。准看護師課程卒業者は多くが進学している。

令和4年度卒業者の看護師国家試験の合格率は93.8%、准看護師試験の合格率は97.5%であった。

### 2 山口県の取り組みについて（県医療政策課）

令和5年度看護職員確保対策事業については、**図（次頁掲載）**のとおり。

### 3 県医師会の取り組みについて

（新規事業）

医師会立看護学校（院）入学募集広報活動等（オープンキャンパス開催時の助成を含む）の支援。令和5年度に入学者を受け入れる学校に対し、各50万円を助成する。※下記（12）のとおり。

## 出席者

### 郡市担当理事及び教務主任

玖珂理事 木村 佳起  
熊毛郡担当理事 齋藤 良明  
吉南担当理事 嘉村 哲郎  
吉南教務主任 岩城 愛香  
宇部市担当理事 藤野 隆  
宇部市選管マネージャー 安平 秀行  
宇部市教務主任 前田 和子  
宇部市教務主任 奥 由美  
山口市副会長 佐々木映子  
萩市担当理事 若松 研弥  
萩市教務主任 中村 幸恵

徳山担当理事 小野 薫  
徳山教務部長 高橋 朋子  
防府会長 山本 一成  
防府副校長 豊田 秀二  
防府教務主任 小谷美由紀  
防府教務主任 山本美恵子  
下松理事 小林 究  
岩国市理事 藤本 啓志  
光市理事 吉村 将之  
美祢市会長 札幌 博義

### 山口県健康福祉部 医療政策課

副課長 原 秀樹  
看護指導班主幹 國富 和美

### 山口県医師会

会長 加藤 智栄  
副会長 沖中 芳彦  
常任理事 縄田 修吾  
理事 木村 正統

看護職員の確保定着を図るため、「養成確保」「離職防止・再就業支援」「資質向上」を柱とした看護職員確保対策を実施する。

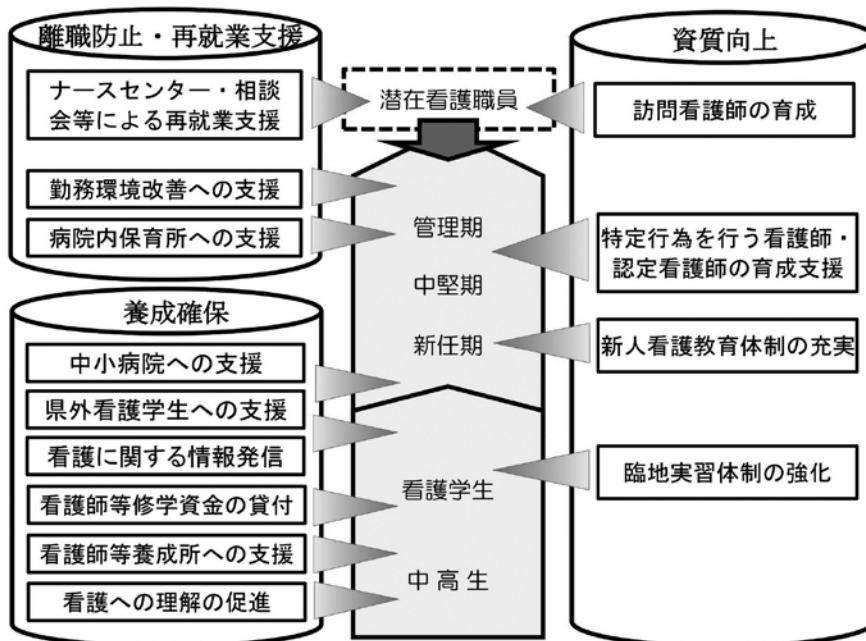
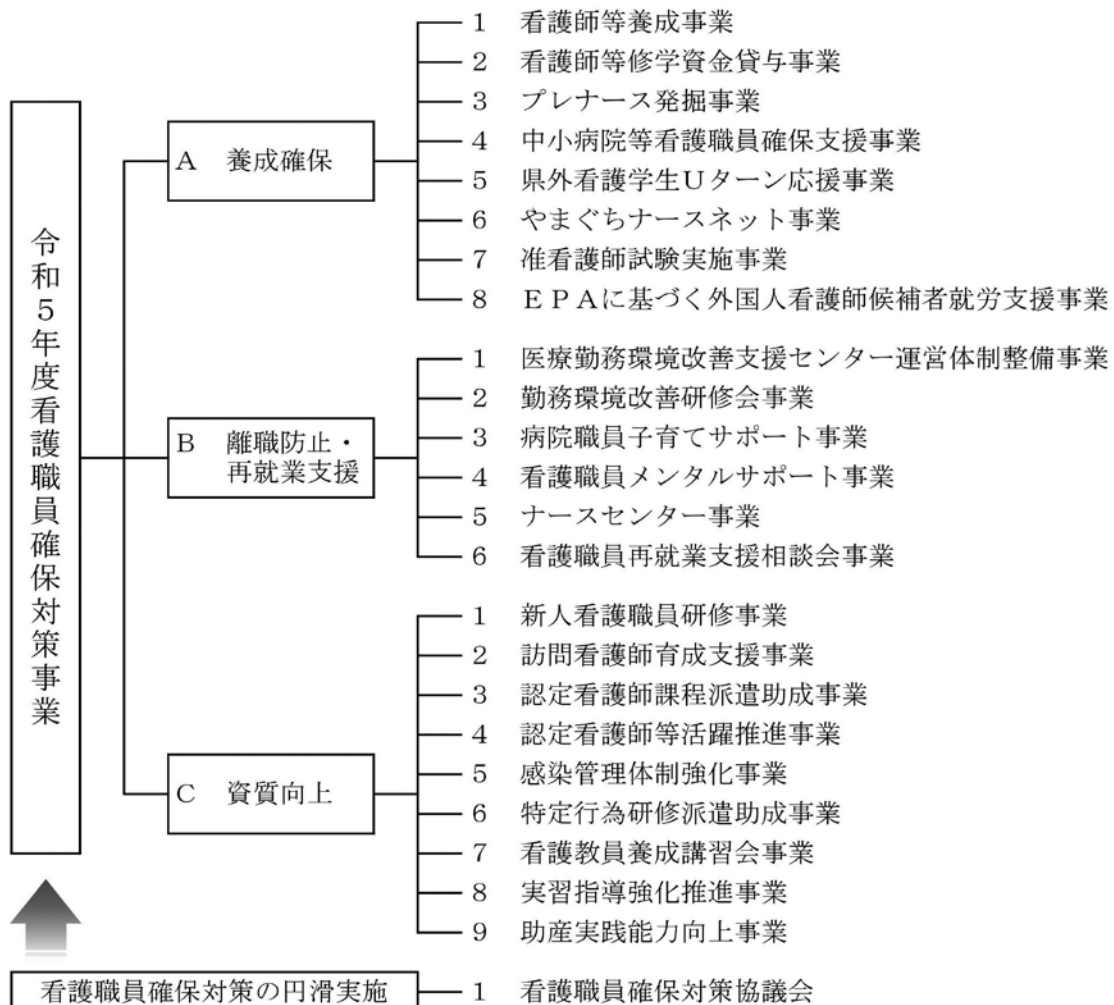


図 令和5年度の看護職員確保対策事業（県医療政策課作成）

- (1) 郡市医師会看護学校(院)担当理事・教務主任合同協議会の開催
- (2) 医師会立看護職員養成施設への助成
- (3) 医師会立看護学校(院)に関する基本調査の実施
- (4) 医師会立看護職員養成所問題への対策
- (5) 中四九地区医師会看護学校協議会への出席
- (6) 都道府県医師会看護問題担当理事連絡協議会への出席
- (7) 山口県実習指導者養成講習会受講者への助成
- (8) 日本准看護師連絡協議会へ賛助会員としての加入
- (9) 准看護師を対象としたスキルアップ研修会の開催時の助成
- (10) 中四九地区医師会看護学校協議会への学校(院)年会費の助成
- (11) 看護教員養成講習会の通信受講者の支援
- (12) 医師会立看護学校(院)入学募集広報活動等(オープンキャンパス開催時の助成を含む)の支援(1校50万円)

#### 4 郡市医師会、看護学校(院)からの意見要望

##### (1) 学生数の確保について

①受験者数も減少しており、学生確保のためにも、看護師等修学資金の貸付金額の増額と免除対象施設の条件見直し(200床未満での就業という免除施設の条件をへき地においてはなくしていただきたい)を希望する。

理由：受験者不足の対策としても、母子家庭などの学生も多く、経済的な支援を充実することで、入学へのきっかけにもなるのではないかと。また、新卒看護師(准看護師)の入職を含めへき地の人材定着を考慮し、返還免除対象施設の「200床未満での就業」という枠組みをなくしていただく方向を検討していただきたい。今後、中核病院など200床以上の公立病院ができた際も、新卒の看護師(准看護師)を今まで以上に確保していく必要があるため。現在も200床以上ある病院所属の学生の中には、支援を受けたくても受けられない、受けにくい、卒後その所属を退職する、返金する、などの状況もみられる。

②PR動画も含め、若者に対するSNSを用いたア

ピールなどを、ますます充実していただきたい。他にも良い方法はないか？

理由：実際、YouTubeのPRを見た生徒はほとんどいなかったが、目につく、意識を持つ、など、動機付けは必要と考える。社会人のリカレント教育、ハローワークへのアピールもお願いしたい。

【萩准看護学院】

応募者、入学者の減少傾向が続いている。今年度、本校も大きく定員を割った。医師会立の看護学校のあり方そのものが問われていると思う。

県はこの状況をどのようにとらえておられるのか。

【防府看護専門学校】

①まずは多くの方に存在を知っていただくための有効な医師会立看護学校のテレビCMなどを作成していただきたい。

②入試合格者や入学手続き完了者でも、病気・家族の介護、配偶者の転勤など予想困難な事例により、毎年数名が入学を急に辞退することがある。事態に備えたある程度の多めの合格者や入学予定者の確保について基準の緩和(許容)をお願いしたい。

【吉南准看護学院】

学生数の減少、専任教員の確保・人材育成への対応とこれからの医師会立看護学校のあり方、看護学校の魅力発信について。

県医師会：看護師等修学資金の返済免除施設の条件については、設定時に「200床未満の病院での看護職員確保」という目的があるため、慎重に検討が必要である。

医師会立看護学校のPRについては当然継続していくが、令和5年度の入学者数を見て分かるとおり、全学校が大きく定員割れを起こしている。県健康福祉部発刊の『山口県の看護の現状』の「入学状況」においても、医師会立に限らず、看護師2年課程及び准看護師課程は応募者数自体が定員に届かず、ほぼ大学看護学科の独占状態である。これは令和4年のデータであるが、令和5年はさらに顕著なものと予想される。この状況は県内に限らず、全国で同様であり、大きな流れの変化は

既に長期化している。

県医師会としては、県内医師会立看護学校及び准看護学院のさらなる統合は必須と考えており、各校との協議を検討したい。

テレビCMについては、1回15秒ではあるが、高校生も観るであろう「高校野球県予選の放映中」(YAB)並びに「インターハイ県予選の放映中」(TYS)にCMが放映されることになっている。

(2) 補助金関係

山口県、県医師会からの補助金の継続をお願いする。 【吉南准看護学院】

県医師会：現状において、県医師会が補助金を減額する状況にはないが、前記(1)の「学生数の確保」と連動し、補助金を集中投入する協議も必要と考えられる。

(3) その他

①看護学生からの相談

看護学生において、日常の授業、進路等について相談する場合、当該教務主任になるのだが、その人間関係が上手くいかない場合、退学等に繋がるケースがある。学生が相談できる第三者のカウンセラー等の窓口設置をお願いしたい。

県医師会：検討のうえ、何らかの事業対応を行いたい。

5 その他

(1) 中四九地区医師会看護学校協議会の案内について

武雄看護学校の担当で、8月20日(日)にオンライン配信される。テーマは「医師会立看護学校の未来構想～いきいきと学ぶ学生の支援～」である。参加費としての学校負担金(年会費：小規模校30,000円、大規模校80,000円)は県医師会が助成する。

(2) 看護学校(院)PRの効果検証アンケートの結果について

令和4年度は、高校生をターゲットに夏休み期間に(高校野球放送、インターハイ放送に合わせ)テレビCMを放映したが、効果は数%に過ぎなかった。

宣伝効果の高いものは「学校(院)のホームページ」(35%)、「家族、友人等からの紹介」(22%)、「先輩からの紹介」(22%)、「出身校からの紹介」(15%)の順であり、PRについてはメディアを使うよりも、圧倒的に知人からの紹介の効果が高く、そこからホームページに繋がっているのではないかと思われる。

(3) 令和6年度学生募集ポスターについて  
例年どおり準備するので利用願いたい。